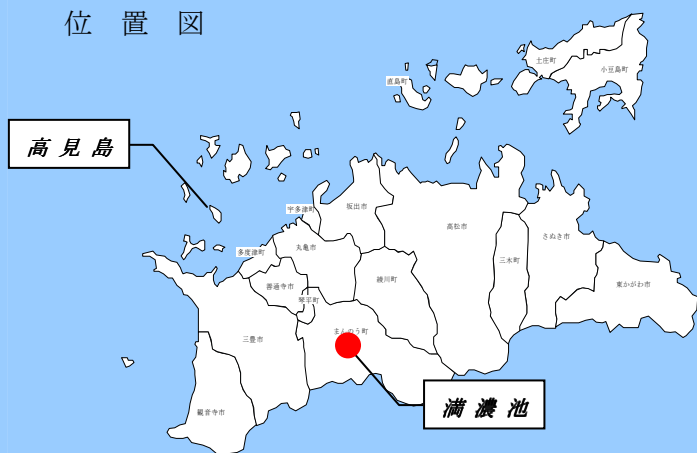


満濃池（まんのういけ）

位置図



諸元

貯水量	15,400	千m ³
満水面積	138.5	ha
集水面積	9,890	ha
受益面積	3,239	ha
堤高	32.0	m
堤長	155.8	m

満濃池は飛鳥時代に国守であった道守朝臣（みちもりあそん）が築き、空海が補修に関わった日本一大きいかんがい用ため池です。これだけ大きい池ですから龍神様や大蛇の伝説が残されていますが、ここでは満濃池と高見島（仲多度郡多度津町）の井戸が繋がっているという伝説について「さぬきのおもしろ伝説② 北條令子著」から引用して紹介します。

高見島に「満濃井戸」と呼ばれる井戸があります。島の井戸なのに、なぜこんな名前が付いたのでしょうか。

むかし、むかしのことです。讃岐には、何日も何日も雨が降りませんでした。高見島では井戸が干上がって、どこの家でも飲み水に不自由するようになりました。島の人々は、大困りでこれは雨ごいをしなければならぬと、真剣に考えていました。そんな日のことです。高見島の男が、一升びんを持って満濃池へ出かけました。干ばつだというのに、さすがは満濃池です。たっぷり水を湛えていました。「さすが、お大師さんの池だ。びくともしないわ。」高見島の男は、一升びんを池のなかへ沈めます。「お大師さん、一升びんに一本だけお水をいただきます。」

男は、満濃池の水を一升びんに詰めて島に帰ります。「お大師さんのお水だ、お大師さんのお水だ」と、大事そうに一升びんを抱き締めていました。舟が高見島に着き、男が舟を降りたとき、力が入り過ぎたのでしょうか。一升びんを取り落としてしまい、水はとくととくと、流れてしまいました。「お大師さんの水を、水をこぼしてしまった。」男の悲鳴は、泣き声になっていました。男は、水が流れたところを残念そうに掘りました。するとどうでしょう。そこから真水が、こんこんとわき出てきたのです。男も島の人々も、大変なよろこびようです。大干ばつの島人たちは、ほっと一息つくことができました。

それから、しばらく経ったある日、満濃池の池係から、満濃池の水利費を支払うよう通知が来ました。水を止められてしまったら大切な井戸が枯れてしまうので、水利費を支払うことになりました。水利費を払っているせいでしょうか、「満濃井戸」は現在でも、水は豊富だそうです。「満濃池と高見島の井戸は、繋がっている??？」

一度、確かめに高見島まで出かけてみませんか。



満濃池土地改良区提供

満濃池



多度津町提供

満濃井戸